

平成19年度 市教研

研究主題

子ども一人一人が生き生きと学習に取り組み、
「確かな学力」を身に付ける学習指導の在り方はどうあればよいか。
～算数科における指導法改善を通して～

1. 研究主題設定の理由

現在、子どもたちの学力低下が問題視され、「読み書き算」の力を確実に身に付けさせる学習指導が求められている。本校では、昨年度まで国語科の研究を行い、「読み書き」の部分で、自分の思いを表現したり、伝えたりする研究を進め、さらに、他教科・領域との関連を図ることで、子どもたちの言語による思考はどの教科でも必要であると実感してきた。今年度から「算」の部分に目を向け、計算技能を高めるのみでなく、子どもたちが日常生活や今後の活動の基盤となる学び方や考え方を伴った算数科の基礎・基本を身に付けていこうと考えた。

算数科は、1年から6年までの系統性が深い教科である。各学年における学習内容の習得状況が、次年度の学習に影響を及ぼすことが大きい教科といえる。全学年を通じた学習指導の在り方、学習指導過程、算数的活動の進め方、算数的学校環境などを整えていくことは、子どもたちの学習において必要であると考えます。

また、本校では、指導法改善教諭が2名配置されている。子どもたちにより力を付けるための配置の方法、学習指導の在り方、少人数での指導、TTの組み方など研究する必要がある。

そこで、今年度より上記のような研究主題を設定し研究を進めることとした。

2. 研究の仮説

ア 算数科の基礎・基本を明らかにし、それを生かした指導過程を工夫すれば、子どもたちに「確かな学力」を身に付けることができるのではないかと。

- 【視点】
- ・ 学習指導過程の作成、実践
 - ・ 基礎・基本の明確化

イ 子どもの実態に応じた学習指導法を工夫、改善すれば、子どもたちは自分の課題に応じて進んで学習し、「確かな学力」が身に付くのではないかと。

- 【視点】
- ・ 児童の実態把握

- ・ 学習指導法の在り方（個に応じた支援，課題学習，少人数指導，習熟度別指導など）
- ・ 算数の思考力，表現力を身に付けさせる指導法の工夫・改善

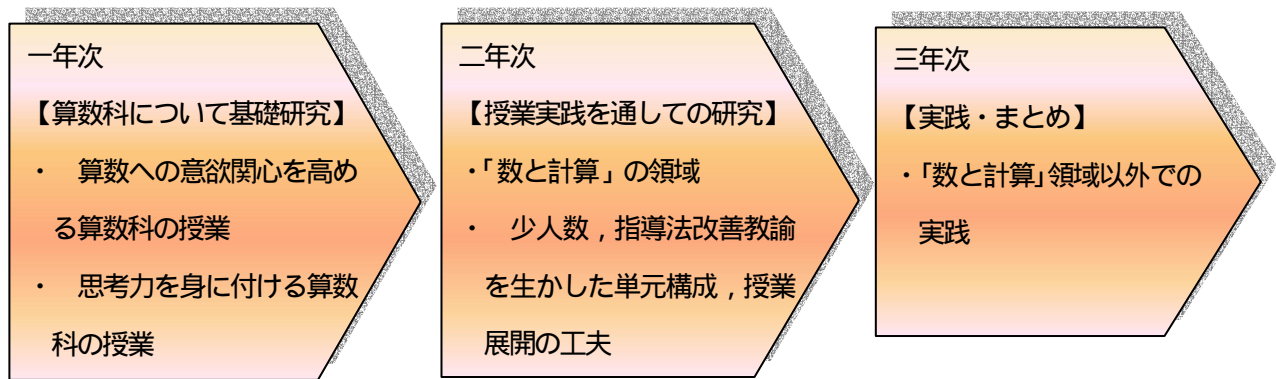
3. 研究の進め方

(1) 研究構想

研究の一年次は，算数科の指導の在り方を明らかにしたいと考える。本校の子どもたちは，計算力が高いのに比べ，意欲関心面，数学的思考力がやや劣るという傾向にある。そこで，一年次は基本的な学習過程を組み立てていき，子どもたちの意欲関心を高め，思考力を身に付けることに焦点を当てて研究を進めることとする。

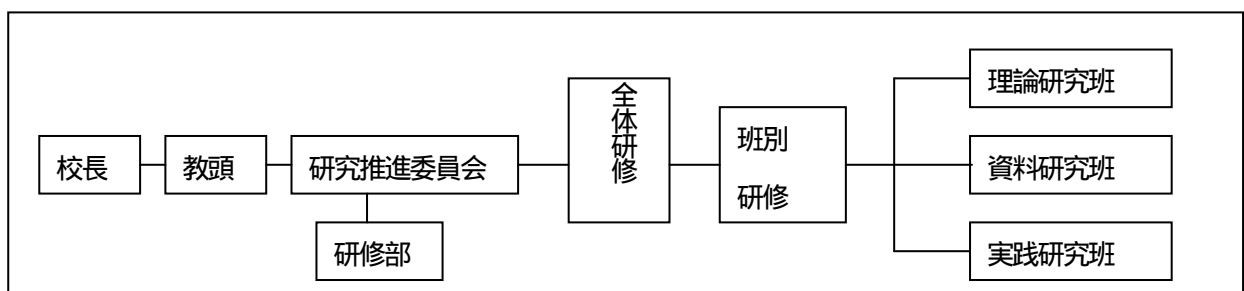
二年次は，子どもたちが比較的得意としている「数と計算」の領域において，子どもたちの力をより伸ばす授業改善を図っていきたいと考える。一年次に引き続き思考力を高める工夫や，支援の在り方，少人数などの指導法改善教諭を生かした単元構成などを研究していきたい。

三年次は，一，二年次の研究を踏まえ，「数と計算」領域以外にも実践を広げていき，研究をまとめていきたい。



(2) 研究組織と研究内容

ア 組織図



イ 研究班推進内容

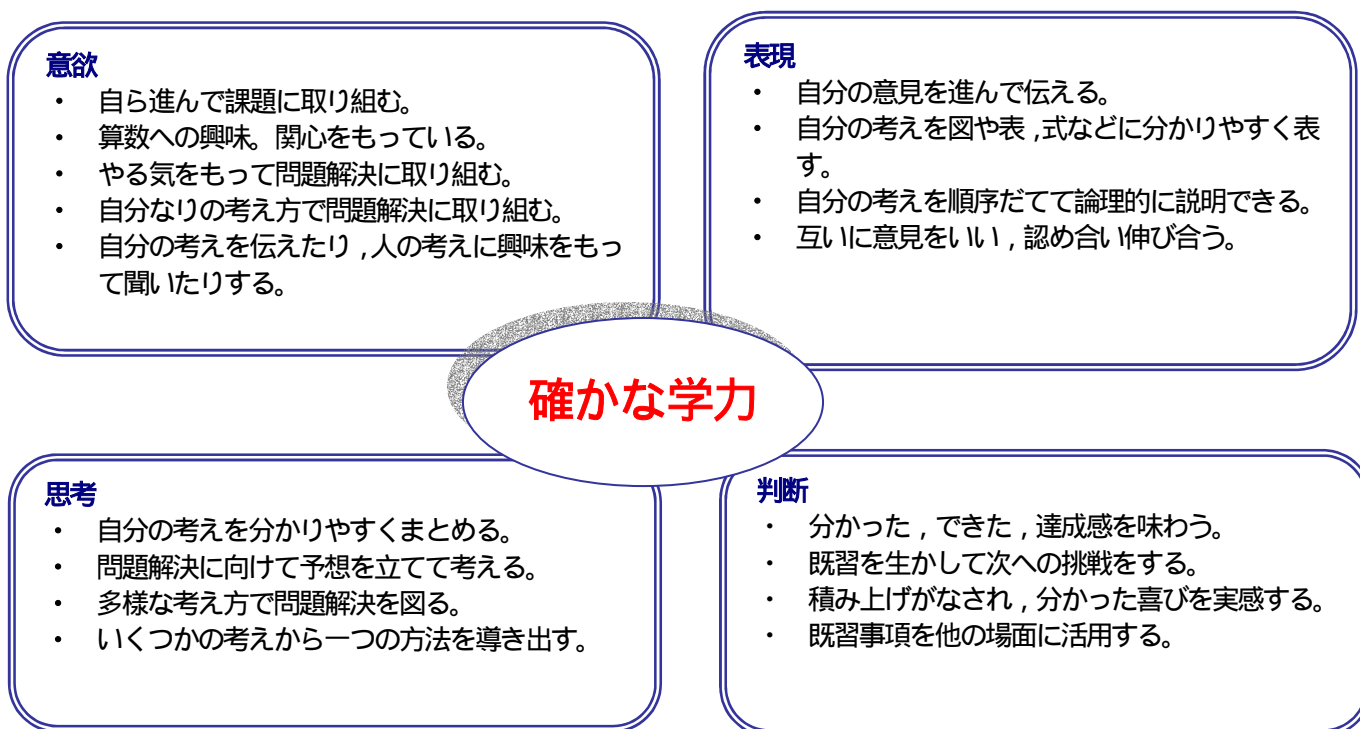
班	研究内容
理論研究班	研究の理論付け 算数の基礎・基本の洗い出し ・ 学習指導要領の分析 ・ 算数学習の系統性 学習指導法の研究（学習形態，指導方法など） ・ 一斉指導，少人数指導，習熟度別指導，T T指導の効果的について ・ 児童の実態に応じた効果的な指導法

資料研究班	児童の実態把握（実態調査，学力テスト等資料の分析等） <ul style="list-style-type: none"> ・ CRT 学力調査の分析 ・ 算数科に対する意識調査 算数的環境設営等（設営の工夫，計算力カルテ，テスト等の検討など） <ul style="list-style-type: none"> ・ 教室設営，学校内の設営の工夫 ・ (必要に応じて)計算力を高めるテストなどの検討 ・ 学習ガイド，家庭学習の手引きなど
実践研究班	学習指導過程の研究 <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導形態に応じた学習指導過程の作成 ・ 学習指導案の形式 学習指導の工夫（板書，ノート指導，発問，教材，教具） <ul style="list-style-type: none"> ・ 板書の工夫，授業中におけるノートの使い方，用具の使い方 ・ 教材，教具の工夫

4. 基礎研究

(1) 確かな学力をもった子ども像

本校では，学習指導要領の主旨や，現状から求められている数学的力を考え，算数的技能に「意欲・思考力・表現力・判断力」を加えたものを「確かな学力」と考えた。さらに，確かな学力を身に付けた具体的な子ども像を以下のようにとらえた。



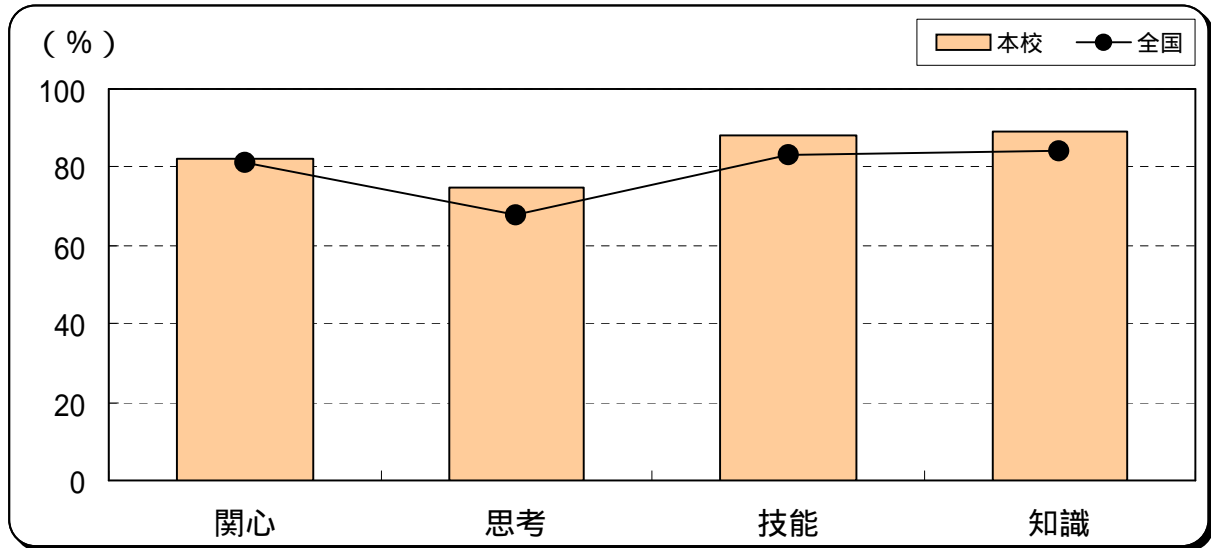
(2) 南小の子どもたちの実態

ア CRT 学力検査より

- ・ 全国平均よりおおむね達成度が高い。
- ・ 他の領域と比較して，意欲関心がそれほど高くない。
 - ・ 「量と測定」「数量関係」において，思考力がやや落ちる。

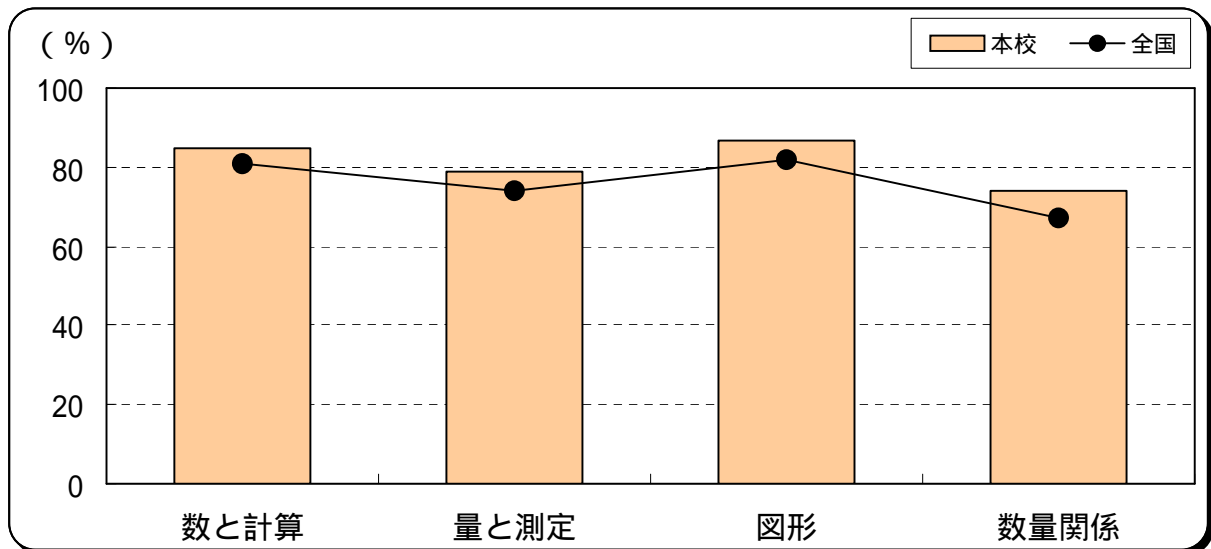
平成18年度算数CRT結果から

1 観点から分析すると (数値は全学年の平均)



全体的に全国平均を上回っている。
4つの観点の中では、「思考」が劣る。
「思考」「技能」「知識」は全国と比較しても差がみられるが、「関心」
については、ほとんど差がない！

2 領域から分析すると (数値は全学年の平均)



全体的に全国平均を上回っている。
低学年は「量と測定」、高学年は「数量関係」が劣っていた。



イ 1学期単元テストの分析より(3, 4年)

各単元で達成度が低かった問題

【3年】

- ・ 考え方を説明する問題や、言葉で答える問題が苦手である。
- ・ 時間と時刻は、苦手な子どもが多かった。日常生活との関連を考えさせられえた。
- ・ 文章問題で、複数の式で表すものに抵抗がある。(問題の具体的場面をとらえられていない。) 観点別テストへ向け、図を描かせて解かせる練習を行ったところ、達成度があがった。

【4年】

- ・ 大きな数のまとまりを考える問題が苦手である。
- ・ 一度経験した問題はできるが、少し出し方が違うとできない。
- ・ 言葉で答える問題の達成度が低い。
- ・ 三角定規の角を使って求める問題ができていない。

ウ 南小の子どもたちの実態

- ・ 計算力は高く、算数の達成度も全国平均を上回るが、思考力がやや落ちる。
- ・ 自分なりの考えで問題解決に臨んだり、新しい問題に意欲的に取り組んだりすることを苦手と感じている。



意欲を高める授業改善...算数的活動，算数のよさ，認められる場面（発表，付けなど）
一人一人が思考する場の設定
多様な意見を交換する場の設定（グループ活動，発表など）

(3) 基本的な学習指導過程

1学年から6学年まで、同様な学習指導過程で学習を進めることで、こどもたちに学習の進め方を身に付けさせることができると考え、基本的な学習指導過程を組み立てた。

授業の1単位時間の流れと指導案の書き方について

単元名 『 』

【本時におけるきめ細やかな指導】(コース名 TT形態の時は明記しない)

1単位時間内で行う意図的な指導内容について明記する。

本時の目標 (コース名 TT形態の時は明記しない)

- ・ 単純少人数指導
(クラスを2つ，2クラスを3人)
- ・ コース別
(習熟度に応じた分け方)

指導過程（ コース名 TT 形態の時は明記しない ）

選	学習内容及び活動	指導上の留意点 評価	資料準備
つかむ	<p>1 本時学習について話し合う。</p> <p>学習問題を確認する。</p> <p>前時との違いをつかませる。</p> <p>2 本時のめあてをつかむ</p> <p>めあての提示</p>	<p>学習問題の提示の仕方など具体的に書く。</p> <p>関心・意欲面に関する評価内容など</p>	<p>使用する 教具等 などを書く</p>
調べる	<p>3 学習内容にしたがって進める</p> <p>めあてにそったまとめまで行う。</p>	<p>学習活動の仕方やコース別に分けた指導の際には、意図的な指導内容などを具体的に書く。</p> <p>数学的な思考に関する評価など</p>	<p>使用する 教具等 などを書く</p>
確かめる	<p>4 練習問題や個に応じた課題を準備して、定着を確認したり、全体指導を行ったりする。</p>	<p>個に応じた指導について具体的に書く。</p> <p>理解度に関する評価など。評価の方法も具体的に書く。</p>	<p>定着を図るプリントなど</p>
まとめる	<p>5 本時のまとめをしたり、児童の自己評価などをさせたりする時間。また、次時へのつながりを意識させる。</p>	<p>本時のまとめの方法を具体的に書く。</p>	

学習指導の工夫（板書，ノート指導，発問，教材，教具）

めあての囲み方（何色で囲むか）やノート指導など，統一して実践できるものについては共通理解・共通実践を図っていきたい。

5. 授業実践

仮説 の検証を中心に第1学年で研究授業を実施した。



は、資料及び実際の様子を挿入

第1学年 算数科学習指導案

2組 21名

指導者 有里 典丈

- (1) 単元名 くりあがりの ある たしざん
- (2) 単元設定の考え方

ア 単元について

子どもたちは、これまでに一つの数を他の数の和や差で表す活動を通じて、10までの数の合成・分解について理解を深めてきている。また、日常の事象から合併や増加の場面をとらえ、ブロックやおはじきなどの半具体物を操作しながら、加法の意味と和が10以内の加法計算の仕方を学んできている。さらに、60までの二位数について、10のまとまりと、ばらの数に分けて考えることで、その表し方と意味をとらえてきている。このような活動を通じて、子どもたちは、自然数に対する考え方を深めてきており、日常の場面からいろいろな数を数えたり、加法の場面に当てはめて考えたりする活動に意欲的に取り組んでいる。

そこで、本単元では、身近な生活から加法の場面をとらえ、具体物や半具体物を操作する活動を通じて、1位数に1位数をたして繰り上がりのある加法ができるようになることをねらいとしている。また、加数、被加数を分解して、十進法の構造に照らして、「10といくつ」をいう見方で2つの数の和を求め、10にまとめていくよさを分かることもねらいとしている。さらに、一つの数を二つの数としてみることで、数の構成の理解や数の多面的な見方が深まり、数の感覚が豊かになっていくものと考え。

ここでの学習で培われた単位の考え方や総合的な考え方は、(1位数)+(1位数)で繰り上がりのある加法の逆の減法の意味や場面をとらえたりする学習や、加法・減法の演算決定、2位数の加法などの学習へと発展していくものである。

イ 指導の基本的な立場

加法は、同時に存在した二つの数量を合わせた大きさを求める場合(合併)や、はじめにある数量に追加したり、それから増加したりしたときの全体を求める場合(増加)などに用いられる演算である。加法の概念は、それらの場面をとらえたり、おはじきやブロックなどの半具体物を操作して表したり、数や記号などを用いて式で表現したりしていく中で培われていくものである。ここでは、(1位数)+(1位数)の繰り上がりのある加法計算の仕方について、10の補数関係に着目して、加数、被加数を分解して「10といくつ」というとらえ方を身につかせ、加法の計算の理解を深めていきたいと考える。

具体的には、1位数と1位数をたして和が11以上になる、繰り上がりのある加法の計算の仕組みやその意味を子どもたち自らの力で見いだすことができるように、具体物や、ブロックなどの半具体物を用いて問題を考えさせ

るようにしたい。

また、その中で自分の考えや意見を友だちと交流させることによって、友だちの考えのよいところに気付かせながら、一つの考え方だけではなくいろいろな考え方があることに気付かせるようにしたい。そして、加数を分解した方がよいか、被加数を分解した方がよいか、五・二進法で考えた方が解きやすいか、自分で計算方法を選び問題を解いていく力を付けていきたい。

さらに、終末では学習した計算方法を定着させたい。単純な計算練習ではなく、子どもたちの学習活動に対する意欲を持たせるように、計算カードを利用して、数の規則性に気付かせ、数に対する感覚を豊かにしていく活動や、たし算すごろくなどの活動に取り組ませていきたい。

このような学習を通して 友だちと学び合いながら自分の考えをまとめていく力を身につけることができ、また、数の見方や数に対する考え方を豊かにしながら、加法計算を習得していくことができるものと考え。

ウ 子どもの実態について

算数の授業についての意欲・関心を調べるため、また加法の既習学習の定着を調べるために、以下のような実態調査を実施した。

実態調査	質問紙法	実施日	2007年8月21日	実施人数	21名			
さんすうのべんきょうは好きですか？								
とても好き (16)		どちらかというとき (0)						
*あまり好きではない (4)		*きらい (1)						
(*の理由) ・難しいから ・ブロックを並べないといけないから ・間違えるから								
どんなおべんきょうが好きですか？(複数回答可)								
かずをかぞえたり、かいたりするべんきょう (12)								
たしざんのべんきょう (16)								
ひきざんのべんきょう (18)								
さんすうのべんきょうでうれしい・たのしいをかんじることはありますか？								
*よくある (7)		*ある (5)						
あまりない (5)		きらい (4)						
(*の理由) ・先生に丸をされたとき ・答えがわかったとき ・テストで100点をとったとき ・発表であたったとき								
さんすうのべんきょうのじかんによきはっぴょうしますか？								
よくする (6)		する (5)						
*あまりしない (10)		*しない (0)						
(*の理由) ・まちがえるから ・いやだから ・あまりわからない								
もんだいのときかたがわからないときは、どうしていますか？								
せんせいにきく (12)		ともだちにきく (1)						
かぞくにきく (1)		そのままにしておく (5)						
既習学習内容の定着度【 ()内は正答率】								
<table border="1"><tr><td>10</td></tr><tr><td>3</td></tr></table> (100%)	10	3	<table border="1"><tr><td>4</td><td>2</td></tr></table> (100%)	4	2	<table border="1"><tr><td>7</td></tr><tr><td>6</td></tr></table> (100%)	7	6
10								
3								
4	2							
7								
6								
8は2と。(90%)	4と5で。(95%)							
2+3(100%)	5+1(100%)							
2+6(100%)	4+0(100%)							
あかいはなが5ほん、しろいはなが4ほん あります。はなは、あわせて なんぼん あるでしょうか。								
式(90%)	答え(100%)							

考察

本学級の子どもたちは、算数の学習が好きな子どもが多い。その子どもは、教師から丸をもらったり、百点をとったり、答えがわかったりということに喜びを感じているようである。好きな学習内容では、複数を選んでいる子どもたちも多く、子どもたちの算数に対する関心や意欲が高いこともわかる。既習学習の結果を見ても、今までの学習が十分に身につけている。しかし、「8は2と」の問題では、問題の意味をよくとらえずに、「10」というような誤答も見られたので、問題の意味としっかりととらえることができるよう、問題をしっかりと読ませるようにしたい。また、授業では、さらに学ぶことの楽しさ、喜びを実感できるように、丸付けや個別指導をしっかりと行い一人一人を褒めていきたい。さらに、発表の声の大きさや考えのよさもみんなで認め合い、称賛するようにしていきたい。

しかし、関心や意欲は高いものの算数の学習を難しいと感じていたり、発表して間違えることを恥ずかしいと思っていたりする子どももいる。また、学習の楽しさや喜びを十分に味わっていない子どもや、自分の考えをうまく表現できない子どももいる。そこで、「間違える」ことを恥ずかしいと思わないように一つの考え方にこだわらず、子どもたちの色々な自由な考えを出す場が必要、クラスの雰囲気作りが重要であると考え。授業を通じて、子どもたちの色々な考えを発表できる場を、友だちと意見が交流できる場を設定していきたい。

(3) 単元の目標

- ア 1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法の場面がわかり、計算することができる。
- イ 1位数と1位数との加法の計算の技能を確実に身に付けることができる。
- ウ 1つの数をほかの数の和としてみるができる。

(4) 指導上の留意点

単に計算をするだけでなく、具体的な絵で示したり、身近な問題として場面を上げたり、抵抗がないように動作化したり、子どもたちの意欲を十分に引き出しながら、たし算の問題場面を十分にとらえさせるようにする。

計算の仕方を考える際には、半具体物のブロックなどを使わせる。10のかたまりを作ることが苦手な子どもには、10ブロックの箱を使わせるなど、具体的な支援をする。

計算の仕方を考える過程で、子どもたちの多様な考えを出させたり、自分の考えを人に伝えたりする場を設定し、子どもたちの思考力や表現力を高めたい。友だちと異なる考え方をしている子どもや、複数の考え方を見つけた子どもを称賛し、色々な考え方があることに気付せたい。また、支援が必要な子どもには支援カードを利用させるようにする。

(5) 単元の計画 (13時間, 本時は 4時間目)

小 単 元	主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
くりあがりのあるたしざん 本時 4/8	1 (1) 加法が用いられる場面を理解し、繰り上がりのある加法 ($9 + 4$) の答えの求め方を知る。 (2) 10のまとまりを作れば良いことを知る。 2 (1) ブロックで10のまとまりを作る操作を行う。 3 (1) 繰り上がりのある加法の計算 ($8 + 3$) で10のまとまりの作り方を考える。 (2) 10のまとまりを作るためには、加数を分解すればよいことを知る。 4 (1) 被加数分解することによって、10のまとまり作る場面について考える。(本時) 5 (1) $8 + 6$ についていろいろな計算方法を考える。 (2) 10のまとまりを作る方法がいろいろあることに気付く。 6 (1) いろいろな方法でたし算の計算をする。 7 (1) 文章問題を読み、加法の場面であることを理解し立式する。 8 (1) 問題作りの活動を通して、加法の意味の理解を深める。 (2) 自分の作った問題を発表する。	合併の場面をイメージとしてつかませるために、実際に子どもたちを並べてみる。 10より大きい数で学習したように、10といくつにわけて考えると、答えが求めやすいことに気付かせる。 支援が必要な子どもには、10ブロックケースを使わせるようにする。 10といくつにブロックを並べながら、計算の仕方を話せるようにする。 お話ができない子どものために、ワークシートを用意する。 10を作るたし算では、10を作りやすいほうへと数を動かすことをおさえさせる。 一つの考え方だけでなく、加数分解、被加数分解、五・二進法など、多様な考えを出させるようにする。 補数を周りの数からひいて考えれば、答えが求められることに気付かせる。 場面をしっかりとらえさせるようにするために、絵を描かせるなどする。 イメージを広げさせるために、すぐに問題を作るのではなく、お話をさせたり、絵を描いたりしてから問題を作らせる。
れかんしどゆう	9 (1) 繰り上がりのある加法の計算カードを作り、計算練習をする。 10 (1) 答えが同じカードを集め、被加数と加数の関係を考える。 11 (1) 計算カードを使ってゲームをし、計算の練習を行う。	既習学習を生かしつつ、計算カードを作らせ、友だちと。 答えが同じカードを並べて、気付いたことを発表させる。 同じ答えのカード取りや、カード合わせなど、理解の程度に応じたグループを作り活動させていく。
ちからだめし	12 (1) 既習事項の理解を深める。 (2) たしざんすごろくを通じて、楽しみながら加法の習熟を深める。	個別に支援が必要な子どもには、ブロックなどを使って問題に取り組みさせる。 発展的な課題を用意し、先に問題が終わった子どもには取り組みさせる。 子どもたちが意欲的に活動できるように、すごろくゲームを行う。
チャレンジ	13 (1) テストを行う。 (2) 折り込みの計算ゲームを行う。	テストを実施した後に、学習のまとめとして、教科書の折り込み計算ゲームに取り組みさせる。

(6) 本時の計画 (4 / 13)

<p>【本時におけるきめ細やかな指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体物や半具体物を操作しながら問題に取り組みさせる。 ・ 子どもの達成状況に応じて、練習カードとヒントカードを用意しておく。
--

ア 目標

被加数を分解することによって、10のかたまりを作ることができる。

繰り上がりのあるたし算の答えの求め方を、自分なりの考え方で表現できる。

イ 本時の展開にあたって（単純少人数）



「つかむ」の段階では、前時の復習を行い、加法の計算では10のまとまりを作ることの思い出させてから、本時の学習問題を提示し、めあてを立てる。



「調べる」の段階では、 $3 + 9$ の問題を計算の仕方について、隣の友だちとブロックやたまごパックを使って考えさせ、どんな方法があるか発表させる。

「確かめる」の段階では、 $3 + 9$ の計算では、被加数を分解して10のまとまりを作るほうが便利であることに気付かせてから、計算問題の練習をさせる。

「まとめる」の段階では、本時の学習を振り返り、感想を発表させ、次時へのつながりを意識させる。

ウ 実際

過程	時間	学習内容及び活動	指導上の留意点 評価	資料準備
つかむ	7	<p>1 前時の復習を行う。</p> <p>2 本時の学習について話し合う。</p> <p>学習問題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>たまごはあわせてなんこでしょうか。</p> </div> <p>3 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>大きいかずが うしろにある けいさんの しかたを かんがえよう。</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>飼育小屋の鶏が産んだ卵と話し、子どもたちの意欲を喚起する。</p> </div>	<p>$9 + 4$の計算では、10のまとまりとあといくつ、と考えると計算がしやすくなることを思い出させる。</p> <p>学習問題は、身近な飼育舎の出来事を想起させ、興味を持てるようにする。</p> <p>前時の学習を生かして発表している。（関心・意欲・態度）</p> <p>たまごパックとたまごを提示する。また、拡大図を黒板に張り出し、場面を想像させやすくする。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>子どもたち一人一人に卵パックを準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・たまご ・たまごパック ・挿絵 ・ワークシート

調 べ る	20	<p>4 3 + 9の答えがどうすれば求められるか考える。</p>  <p>5 自分の考えた計算の仕方を隣の友だちに話す。</p> <p>6 自分の考えた計算の仕方を発表する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・ぜんぶ、かぞえていけばいいよ。 ・3つのほうに、7こごかして10のまとまりをつくればいいよ。</p> </div>	<p>ブロックや、たまごパックを使って、計算のしかたを考えさせる。</p> <p>計算の仕方は、一つだけではなく、いくつも考えさせるようにする。</p> <p>ブロックを移動しながら、考える子どもたち</p> <p>お話がうまくできない子どもには、ブロックと一緒に操作しながら支援する。</p> <p>自分なりの計算の仕方をを見つけ、話すことができたか。(数学的な考え方)</p>  <p>黒板でブロックを動かしながら発表する。</p>	<p>・たまごパック ・ブロック ・磁石付きブロック ・パック挿絵</p>
確 か め る	15	<p>7 10をつくるたしざんでは、10を作りやすいほうで、大きい数のほうで10を作ったほうがよいことをおさえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>大きいかずで、10をつかったほうがはやくいさんできる。</p> </div> <p>8 練習問題に取り組む。</p>	<p>磁石付きブロックを操作しながら、子どもたちの考えをまとめていく。</p> <p>ワークシートに丸を付けながら、称賛、支援していく。</p> <p>10にまとめていくよさに気付き、計算に生かすことができたか。(表現・処理)</p>	<p>・磁石付きブロック ・たまごパック ・ワークシート ・練習カード ・ヒントカード</p>
ま と め る	3	<p>9 本時の学習を振り返る。</p> <p>10 次時の予告を行う。</p>	<p>たのしかったことや、できるようになったこと、わかったことを発表させる。</p> <p>自分なりの気付きや思いを発表できたか。(関心・意欲・態度)</p>	

7. 現段階における研究の成果と課題

(1) 研究授業 の授業研究より課題として出されたこと

ア くりあがりのある足し算における基礎・基本である10のまとまりをつくるよさについて、子どもたちに十分

気付かせる学習展開を考えたい。

イ 指導過程の中で、学習問題の立て方はどうあればよいか。

ウ 「調べる・確かめる」の段階で多様な考えを引き出すために、見通しを立てさせる必要がある。

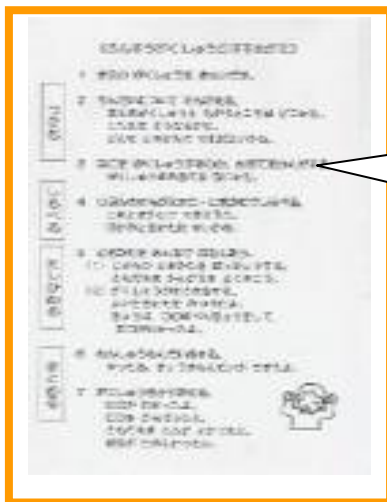
エ 思考力、表現力を育てるためには

- (ア) 分かった、できたという達成感を味わわせる。
- (イ) 考えを自由に出させる雰囲気作りが重要である。
- (ウ) それぞれの考えを認めたり、早くできた子の生かし方を考えていったりして、友達との関わりを構築する。

(2) これまでの研究における成果

ア 子どもたちの実態調査を分析し、思考力を高める実践をおこなっていくという研究の方向性を見出せた。

イ 基本的な学習指導過程を作り、1時間の学習の流れを確認できた。



子どもたちに基本的な学習の流れを身に付けさせるために、「がくしゅうのすずめかた」を教室に掲示している。

ウ 研究授業を実施し、学習指導過程や思考力を身に付ける授業の在り方について話し合い、今後の研究の方向性を考えられた。

(3) 今後の研究に向けての課題

ア 子どもたちの実態を踏まえ、意欲を喚起する授業の展開や、学習指導の工夫をさらに行っていく必要がある。

イ 基本的な学習指導過程の中で、学習問題の立て方や学習の見通しの立て方などを考えていくなど、より子どもたちの思考にそった学習指導過程を作り上げていく。

ウ 仮説 の実践へ向けて指導法改善加配を生かした授業の在り方を研究する。